

オスプレイ飛行再開



政府説明は破たん

共産党の国会追及でハッキリ



日本共産党の赤嶺政賢議員（沖縄選出）は1月27日の衆院予算委員会で、昨年12月13日に墜落・大破したオスプレイの飛行や空中給油が再開され、それを政府が「機体構造が原因ではない」などとして容認した姿勢を厳しく追及しました。政府はまともに答弁できず、「構造が原因でない」どころか、逆にオスプレイの構造的欠陥が浮き彫りになりました。

「乱気流が発生」(防衛省) というが、気象庁「確認していない」

MC130特殊作戦機からの空中給油訓練中に発生した今回の事故について、防衛省は「給油ホースを分離させた後に、乱気流等により、給油ホースとオスプレイのプロペラが接触した」と説明しています。しかし、赤嶺氏の質問に気象庁長官は、「事故当時に乱気流の発生を確認していない」と答弁。自然現象としての乱気流がなかった可能性が明らかになりました。



▲空中給油を行うオスプレイ(米海兵隊ウェブサイトで)

前方機の後方乱気流に弱いオスプレイ

赤嶺氏は、米フロリダ州で前方機から生じる後方乱気流で後続のオスプレイが墜落した事例(2012年)にふれ、「前方機のMC130からの後方乱気流で、オスプレイが機体のバランスを崩し、給油ホースに接触した可能性はないのか」と追及。政府はこれを否定できませんでした。後方乱気流が原因となれば、オスプレイが空中給油を行うこと自身が危険ということになります。オスプレイの構造的欠陥そのものと言わざるを得ません。

ホースに当たればバラバラに壊れるプロペラ

赤嶺氏は、給油ホースの接触でオスプレイのプロペラが損傷したことについて、米国防総省でオスプレイの開発にかかわった専門家が「プロペラはホースに当たるとバラバラに壊れてしまう」と述べていることを紹介。「プロペラの強度を確認したのか」とたずねました。防衛省は「米側に直接は強度を確認していない」と答弁。あまりに無責任です。

動画でも見られます→



オスプレイ東京・横田配備は中止に!!

オスプレイの危険性を隠そうとする日本政府の態度に、怒りでいっぱいです。危険なオスプレイは、沖縄にも、東京にも、日本にも要らない——この声をあげてゆきましょう。



衆院15区予定候補

よしだとしお

吉田としお



都議会議員(江東区選出)

あぜがみみわこ

あぜ上三和子



ご意見・ご要望は 03-3370-0311、FAX 03-3370-0471

2017年2月号外 日本共産党東京都委員会の見解を紹介します。

発行/東京民報社(港区芝1-4-9 平和会館5階) 1965年11月12日第三種郵便物認可

日本共産党